

「令和元年度京都府立学校特別支援教育コーディネーター研究協議会」報告

令和元年5月28日（火）



京都府スーパーサポートセンターでは、今年度で6年目となる、府立学校特別支援教育コーディネーター研究協議会を開催しました。高等学校の新学習指導要領にも特別視支援教育に関する内容が明記され、高等学校での特別支援教育も一層進んできています。

前半は研修、後半は府立高等学校の特別支援教育支援コーディネーターと府立特別支援学校の地域支援コーディネーターが担当圏域ごとのグループに分かれ、交流や協議を行いました。

説明「高等学校の特別支援教育の状況と課題」

講師
京都府教育庁指導部高校教育課
玉川 勝巳 指導主事



*全国の高校における特別支援教育の状況、校内委員会の充実、教職員の共通認識の重要性、個別の指導計画の作成と活用についての説明がありました。

研修「大学における障害のある学生への支援～高大の接続を意識して」

講師
京都大学 学生総合支援センター 准教授
障害学生支援ルームチーフコーディネーター
村田 淳 氏



*「障害」の現在、大学における障害学生支援と障害者差別解消法、発達障害のある学生への支援について御講義いただきました。また、参加者からの事前アンケートにも丁寧に回答していただきました。



研究協議 テーマ「講演から学んだことや、校内で悩んでいることなどの協議・交流」

各地域支援センター圏域の高等学校の特別支援教育コーディネーターと特別支援学校の地域支援コーディネーターがグループになり、協議を行いました。各班とも、村田先生のお話から、自校での実践やエピソードを交流し、日頃の考えなどを活発な意見交換や情報交換が行われました。顔と顔を直接見合わせることで、今後につながる研修になりました。



最後に、粟津京子指導主事（特別支援教育課）からは、「高等学校での経験がその後の進路につながる重要性」など指導助言をしていただきました。